

平成31年度 佐賀県立神埼高等学校 学校評価計画

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
<p>校訓「至誠・尚学・進取」を基調に、高潔な人格形成を目指した人間教育の振興に努め、地域に愛され、自信と誇りに満ち、向上心豊かで、社会を逞しく生きていく人間を育成する。</p> <p><b>【至 誠】</b> この上ない誠実、きわめて誠実 日々の学校生活に誠実に取り組み、人格を高めることである。</p> <p><b>【尚 学】</b> 学問を専ぶ 謙虚な姿勢を持ち、学ぶことを専ぶことである。</p> <p><b>【進 取】</b> 進んで新しいことに取り組み 慣習などにとらわれず、新しいことに積極的に取り組むことである。</p> <p><b>目指す学校像</b></p> <p>① 生徒の能力、可能性を伸ばし、知・徳・体の調和のとれた全人教育を実践する学校</p> <p>② 生徒一人ひとりの学力向上を図り、全ての生徒の進路目標実現が達成される学校</p> <p>③ 保護者や地域社会と連携協力し、地域から信頼され、地域とともに発展する学校</p> <p><b>目指す生徒像</b></p> <p>① 校訓「至誠・尚学・進取」を実践し、高校生活に全力で取り組む生徒</p> <p>② “志”高く、自ら限界を設けず、何事にも挑戦する気持ちを持ち続ける生徒</p> <p>③ 他者を尊重するとともに自らも厳しく律し、逞しく生きていく力を備えた生徒</p> <p><b>目指す教師像</b></p> <p>① 自己研鑽に励み、自らの指導力を磨き、生徒とともに成長を遂げる教師</p> <p>② 生徒の自尊感情や自己肯定感を高め、やる気を導き授業で勝負する教師</p> <p>③ 強い使命感と高い規範意識、協働意識を持ち、他者と一体となって行動する教師</p>	<p>①新たな大学入試制度を見据えた学力の育成及びそのための授業改善の実践</p> <p>②生徒の自己肯定感や自己有用感、向上心を高める教育活動の実践 ～日々の授業のほか、生徒会活動や部活動、地域と連携した取り組みの活性化～</p> <p>③保護者、地域社会から高く評価される「神高生」の育成を図る生徒指導</p> <p>④中学生や保護者、地域社会に向けた学校情報の定期的、効果的な発信</p>

達成度
A:ほぼ達成できた。
B:概ね達成できた。
C:やや不十分である。
D:不十分である。

3 目標・評価

①新たな大学入試制度を見据えた学力の育成及びそのための授業改善の実践

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	教科指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒による授業評価において「理解できる」「概ね理解できる」割合を80%以上にする。</li> <li>各教科で学習用PCを活用した課題を、昨年度より数多く出題する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の目標や実施に応じた授業計画を立て、適切な教材を精選することで個に対応した教育を行う。</li> <li>授業研究や教職員間の相互研修などを通して、教員の授業力を向上させることにより、授業内容の改善を図り、分かりやすい授業の実践に努める。</li> </ul>			
		授業時間の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての教科、科目において授業実施率80%以上を確保する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>曜日振替などで年間を通してバウンスをとるよう心がける。</li> <li>出張などに対応して授業の振替を行い、時間数を確保する。</li> <li>自習時間をなくすよう、教科内や他教科との相互連携を図る。</li> </ul>			
	○進路指導	進路希望の達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>国公立大学合格者数10名以上を目指す。</li> <li>福岡大・西南学院大等への合格者数20名以上を目指す。</li> <li>生徒個人の進路適性・希望を的確に把握し、95%以上の第一進路希望達成を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間を通して課外授業を実施し、入試に対応するための応用力の育成を行う。</li> <li>自学自習への取り組みを充実させる。</li> <li>各学年の進路相談を実施することで、生徒の進路希望を把握し、面談等で適切な支援を行う。</li> </ul>			
		進路意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人一人がキャリアプランニングを通して自己実現を行うために、各学年の状況に応じたキャリア教育を行い、進路意識の高揚を図る。</li> <li>進路に関する情報を随時発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路講演会、オープンキャンパス、佐賀大学ジョイントセミナー等、キャリア教育を計画的に実施する。また、総合探究の時間・総合的な学習の時間を活用し、キャリアプランニングを行う姿勢を育成する。</li> <li>「進路のしおり」を作成し、情報発信を行う。</li> </ul>			
	○読書指導の推進	読書環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の必要に応じた選書に努め、質の高い読書を促す。生徒一人当たりの貸出冊数を昨年度以上とする。</li> <li>図書館の利用の活性化を図り、学習場所としての環境を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科から、学習態度や生徒の興味関心にあった読書を推薦してもらう。</li> <li>「読書がしおり」を発行し、書籍や図書館活動についての情報を発信する。</li> </ul>			
	○教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	ICT活用教育の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の学習用PCの活用を推進する。</li> <li>ICTを活用することで、生徒の興味関心を高め、学習意欲を喚起する。</li> <li>ICT活用授業実施率の学校平均60%以上を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年1回は各教科で学習用PCを活用した研究授業を実施する。また、電子黒板使用時の見聞の視点に立ったプレゼンテーションの手法について研究する。</li> </ul>			

②生徒の自己肯定感や自己有用感、向上心を高める教育活動の実践

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○向上心の育成	第1学年の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>知徳体の調和のとれた生徒の育成を目指す。</li> <li>心算定を徹底させる。(起床時間、家庭学習開始時間、就寝時間)</li> <li>年間出席率90%、皆勤者60名以上を目指す</li> <li>8月県模試1000番以内10名、1500番以内20名を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア講演会や進路講演会を実施する。また、生徒指導委員会、学年集会等を定期的に実施する。</li> <li>フォーサイトスケジュール概を活用させる。</li> <li>学年別課題の設定や直直面談を実施する。スケジュールカレンダーの活用。</li> <li>長期休業中に上位者への個別指導等を実施する。</li> </ul>			
		第2学年の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎基本を充実させ、さらに力を付けることのできる人材を育成する。</li> <li>成績上位者のさらなるアップと、下位者のさらなる底上げ。</li> <li>12学年級生徒数60名以上。</li> <li>県下一斉模試1000番以内10名、1500番以内20名以上を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手帳を利用したスケジュール管理の徹底。</li> <li>HR時の服装指導、挨拶指導。</li> <li>様々な声掛けと面談によるアドバイス。</li> <li>2年後の進路に向けての継続的な指導。</li> <li>キャリア教育プログラムの充実。</li> </ul>			
		第3学年の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>平日4時間以上、休日6時間以上の家庭学習時間を確保するよう指導する。</li> <li>すべての生徒の希望進路を実現する。とりわけ、国公立大学10名、西南学院大・福岡大20名の合格を目指す。</li> <li>最上級生として下級生の模範となるような高い倫理観と規範意識を持った言動を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路講演会等により、最新の進路情報を提供する。また、生徒及び保護者との面談において、適切な進路指導を行うことで、すべての生徒の進路実現をサポートする。</li> <li>スケジュール概をフル活用させ、自ら見通しをたてて行動できるよう指導する。</li> </ul>			
	●志を高める教育	自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>開校記念講演会や創立90周年記念式典での講演会、職業講話等に先輩方を招き、夢を叶えるために行った具体策や実践例を話していただく。</li> <li>進路指導部と協力し、3年生が目標達成のためどのように取り組んだのかを先輩に伝える取り組み(講演会や冊子作り)を行う。</li> <li>年度当初から年度末に目標意識が高まったという生徒の割合を80%以上にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>先輩からの講演会(「夢を叶えるための」ヒントを話していただき、自らの夢や目標の実現を目指す心を育成するための指導を行う。</li> <li>総合的な探究(学習)の時間やHRにおいて、生徒の将来性への見聞が広がるかについて、様々な情報を伝え、早期に目標に向けて取り組んでいくように指導する。</li> </ul>			
	○生徒会活動	生徒会活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒主体の生徒会活動を推進し、全校生徒で取り組む自主的、自発的、能動的な生徒会活動の充実を目指す。</li> <li>各専門部の活動を活かし、「生徒全員参加」の生徒会活動を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>週1回の生徒会執行部会議を行い、生徒会活動の企画・運営について話し合う。</li> <li>生徒会が主体的に活動し、学校を活性化できるように行事を企画し、手立を工夫する。</li> <li>各専門部委員会を月1回開催する。</li> </ul>			
	○部活動	部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動加入率90%以上を目指す。</li> <li>学校全体ですべての部活動を互いに応援し合える環境をつくる。</li> <li>県・学年方針に沿ったよう、計画的な活動と適切な休養日の設定を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動未加入生徒に対して、面談や集会などを通して加入に向けてのアプローチを行う。</li> <li>大会予定や試合結果を全ての生徒で共有する。</li> <li>県・学年方針に沿ったよう、計画的な活動と適切な休養日の設定を行う。</li> <li>毎月の活動計画と実績を点検し、平日及び週休日に適切に休養日を設定する。</li> </ul>			
	○清掃・美化活動	エコ意識・美化意識の高揚 日々の清掃活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境美化に対する意識を高め、また節約に努めて、学習に集中できる学校環境を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>持ち込んだごみの持ち帰りや紙のリサイクルにより、ごみの量を減らす。</li> <li>安全点検を毎月行い、掃除用具の不備等の解消や危険箇所の点検・修理を適宜行う。</li> </ul>			
	○地域ボランティア	地域清掃活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域清掃活動の活性化、自主的参加を目指して、意識高揚を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年2回の地域清掃活動を全校生徒で実施する。</li> <li>生徒会を中心として、各種ボランティア活動に積極的に参加し、地域に貢献する姿勢・ボランティア精神・郷土愛の育成に努める。</li> </ul>			

③保護者、地域社会から高く評価される「神高生」の育成を図る生徒指導								
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	
教育活動	●心の教育	基本的な生活習慣の確立	・生徒の規範ある生活態度の醸成に努める。 ・頭髪服装検査での事後指導者を毎回10人以上にする。	・選別指導及び服装指導を徹底する。年5回、定期考査時に校門指導を行う。 ・年8回、定期的に服装頭髪検査を実施し、事後指導を継続して行う。				
		道徳心の育成	・人間の生の前提が社会生活であることを理解させ、自立的で幸福な人生を生きるための規範意識を身につけさせる。	・HRや授業、部活動や学校行事など全ての教育活動の中で、組織的にまた公平に指導し、自立的・主体的に考えて行動できる市民を育てるよう努める。 ・学校生活での各係や役員の仕事に責任を持ち、考えながら活動するように指導する。				
	○生徒指導の充実	問題行動の減少	・全職員の見通しを高め、学校全体の指導力向上を図る。 ・問題行動を2件以内に抑制する。	・全校集会、学年集会等で規範意識の高揚を図る。 ・クラス担任、学年会と密接な連携を保ち、問題行動の予防と再発防止に努める。 ・特に1年生への指導回数を増やし、継続的に行う。				
		ICT利活用マナーの向上	・携帯電話やスマートフォン、インターネット、SNS等の危険性を理解させ、マナーの向上を図る。	・HR等で配布物や映像を用いた研修を実施し、デジタル上や危機意識を高める目的の講演会を実施する。SNS等の使用状況調査を行い、使用時間やトラブルの早期発見に努める。				
	●いじめの問題への対応	いじめの早期発見・早期対応に向けた体制づくり	・学校でいじめに関して「しない・させない・許さない」の基本姿勢を確立し、SOSのすずの感触したときには、教職員(保護者)が連携し、早期発見・早期対応に努めていく。 ・対策事業については、専門家・保護者・関係者と連携し、迅速に対応する。	・日常の学校生活において生徒を正しく観察し、クラスや学年、部活動等、各場面ととらえて多角的に情報共有を行う。 ・年2回の学校アンケート実施のほか、手紙や各種提出物における生徒の記述内容を細やかに把握する。				
	●健康・体づくり	健康・安全に関する意識の高揚と実践	・健康安全について興味関心を高め、自己管理能力を育てる。 ・定期健康診断後の受診率を50%以上にする。 ・生徒保健委員会の活動を活発にする。	・「保健だより」を毎月発行し、健康安全についての意識を高める。 ・「健康診断だより」で健康診断の意義や手順を示すとともに、検査後の要受診者に個別指導を行い、受診率を高める。 ・生徒会と連携して保健委員会活動を行う。				
			教育相談や特別支援教育の充実	・教育相談、特別支援教育についての理解や知識を認め、スクールカウンセラーや担任、保護者と連携しながら、生徒が心身ともに健康的な学校生活を送るよう支援する。 ・専門機関との連携体制を強化する。	・全職員間で情報交換を密に行い、瞬時に状況に応じた支援および対応(いじめ対応、スクールカウンセラー等の活用)が行えるよう連携体制を確立しておく。			
		食育の推進(望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成)	・全校生徒の朝食摂取率80%以上の確率を目指しつつ、朝食メニューの質の向上も目指す。	・「保健だより」の活用や関連教科、部活動との連携を図り、食と健康さらさら運動とのつながりについて興味・関心を持たせる。 ・食育推進のための研修会や講演会を実施する。 ・食育活動実践モデル研究事業に参加し、生徒、教師共に効果的な食育を推進する能力を身につける。				
	④中学生や保護者、地域社会に向けた学校情報の定期的、効果的な発信							
	領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○渉外・広報活動	保護者との連携	・重点目標を「知っている」、「見たことがある」保護者の割合を昨年の評価値90%以上にする。	・後援会総会、保護者会、学校HP、学校だより等を通じて重点目標を広報する。 ・後援会と協力して、保護者とともに生徒を見守り、支援する活動を行う。				
		地域社会との連携	・地域行事への参加に積極的になる。 ・「学校だより」を毎月発行し、生徒・保護者及び神高市全戸に配布する。 ・「うどん会」で神高そめいん組合との連携を図る。	・「学校だより」等配布物の紙面作りを工夫する。 ・「学校だより」を学校HPに載せ、神高市の全戸へ回覧し情報発信を続ける。 ・地域の行動を把握し積極的に参加して地元との連携に努める。				
		電話、来訪者等への対応	・神高高校の窓口として、来訪者等に窓口対応の満足度を高めることを目指す。	・電話や窓口対応では、明るくかつ誠実に対応することを中心として安心感を与え、結果として好印象を伝えることができるよう対応を心がける。				
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目								
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	
学校運営	○組織運営	教職員の連携促進	・校務が特定の職員に集中する傾向にあり、業務の効率化・分散化・精選に努める。 ・アンケートにおいて「教職員の連携が図られている」割合を90%以上にする。	・運営委員会を中心として、校務分掌部会・学年会で学校行事や企画・会議等の見直しや精選を行う。また、風通しのよい校務運営に努めていく。				
		●業務改善・教職員の働き方改革の推進	業務の内容精選 効率化を図る取組み	・学校行事や会議、事務作業等の見直しを図ることによって、教職員の労働時間短縮を図っていく。 ・「時間外勤務時年度比-10%」を目標とする。	・教職員から提案された見直し・改善案を基に対策会議を行い、検討する。短期的・中長期的課題に分けて進めていく。 ・部活動の休養計画が十分でない職員については、管理職がヒヤリングを行う改善を図る。			
			働きやすい職場環境づくりの推進	・職員間の情報共有を図ることで、フォロー体制を充実させる。 ・生徒・職員が安心安全な学校生活を送るために、施設・設備面での充実を図る。	・目頃からコミュニケーションを大事にし、声掛けを行うことで課題を共有する。また、課題解決にも複数人に対応することで一体感を取り、悩みを一人でため込まない体制づくりを図る。 ・定期的に安全点検を実施することで、施設の危険箇所や移転を要する箇所の早期発見を行うとともに、節電・節水等を徹底し、経費削減できた分を必要な物品購入費用に充てる。			
4 本年度のまとめ・次年度の取組								
<p>●は共通評価項目のうち必須項目、◎は共通評価項目のうち特定課題、○は独自評価項目</p>								